



令和 8 年度 生活科実践・研究計画

部 員 ○丹理人、佐藤咲紀

I 生活科における 自律した学習者の姿

- 1 対象に繰り返し関わり、思いや願いを強くしていく中で豊かに表現し、関わり方をよりよくしようと試行錯誤する姿
- 2 必要に応じて気付きを共有し、活動に対しての考えを深め、活動を変容させ、遊びや生活を豊かにしていく姿

II 生活科における 授業デザインの取組

- A 繰り返し関わり、手応えを感じながら活動を発展させていくことができるような対象の設定や、出会いの場の工夫
- B 子どもの思いに寄り添った展開や場で、子どもが生き生きと活動できる単元づくり
- C 子どもが選択した場所・時間、メンバーで、必要感に応じて気付きを共有できる場づくり。
- D 活動の中で生まれる課題に気付き解決に向かえるような教師の声掛けや単元構成

III 1・2 年次研究で生成した仮説

	問題解決に没頭する子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	要因・手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	自然物や園児等、対象に自由なタイミングで関わり続けることで、自然や園児に対する思いや願いを強くし、遊びを発展させた姿 (1)	自分のタイミングで関わることでできる、身近な人やものを活動の対象とし、道徳の時間の話し合いや、休み時間の散策など、教科の時間を越えて子どもが対象に思いを寄せ続けられるように働きかけた。(A、C、D)
	自由に活動する中で直面した個別の課題を解決しようと、友達とつながりながら試行錯誤した姿 (2)	一人一人の課題を追究できるように活動の時間や自由が確保された中で、互いの課題を知り、協働して解決していけるように子どもをつなぐシートの記入や相互評価を継続した。(B、D)
二 年 次		

IV 1 年次研究の課題と、改善するための手立て

	課題となった子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	改善するための手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	自分の活動に満足しているが、得られた気付きを基にして活動を変容させることができない姿 (2)	活動の中で得られる一人一人の多様な気付き、思いや願いのずれを認識できるような共有の場を設定したり、他者の立場になって活動を省察することのできる単元の流れを工夫したりする。(D)